

No.	発言のポイント	要旨
1	災害に関する情報の徹底を	南海トラフ巨大地震に関して、ニュースで得た情報と資料の情報が異なっている。どちらが正しいのか。洪水警報が出た時、避難場所が分からないから家にいたという話を聞いた。岡山は危機管理意識が低いのではないか。広報誌等で情報を徹底してほしい。
2	社会インフラの安全・安心のアピールを	社会インフラが安全・安心を担保していることをオープンにする。安全・安心というものは社会インフラが安全・安心であるということからスタートすると思うので、そこをアピールないし、オープンにすることだ。
3	津高地区の道路整備を	国交省陸運支局が中区から北区の富吉に移転された。津高地区の道路が大変だと聞いている。53号は何とか流れているが、180号は混み合うと狭い道に大きな車が入り、地域の安全・安心に非常に問題がある。新道路の建設などを基本政策に入れていただければよいと思う。
4	データ検証による対策を	安全・安心を事件・事故・火事の類だけで集約するのは偏っているが、岡山市は人口千人当たりの刑法犯の発生件数が非常に多い。岡山より件数が多いと思える他都市をはるかに超えている。人身事故件数と火事も多い。単身高齢者世帯の火事が多ければ、今後ますます増加する。データを詳細に分析し、対策を講じて、安全・安心を実現してもらいたい。
5	首都圏に岡山をアピール	東日本大震災以降、首都圏に住む人たちの約50%が転出したい、住居を移したいと資料にある。温暖な気候風土で、自然にも恵まれているところに転出したいという思いがある。大学に進学する子どもを持つ親は、安全で安心できる岡山の大学がいいと考えるかもしれない。そういう親たちに狙いをつけるのもありだと思う。
6	安全・安心ネットワークの活動分野の見直しを	防犯は97.5パーセント、交通安全は93.8パーセントと活動率が非常に高いが、高齢者支援は84パーセントで、子育て支援は60パーセント、まちづくりは約半分となっている。防災・減災もまちづくりの活動分野に含めたらどうか。
7	橋梁整備の推進を	橋梁の整備を進めていかないと将来にわたり非常にコストがかかる負の遺産になる。目に見えない問題だが、対策が必要だ。
8	橋梁整備は大きな問題	橋梁整備は非常に大きな問題だ。単に現状を知らせるだけでなく、整備に対する具体的な投資額や方法を提示しなければ市民は安心できない。
9	暮らしやすさを具体的にアピール	災害が少ない、温暖であるなど、岡山市が暮らしやすいのは間違いない。それを実感してもらうための具体的なものが必要だ。関西方面から来られた人は「水のおいしさ」を挙げていた。そういった具体的にアピールできるものが必要だ。
10	既存組織の活用を	地域の防災に関しては、多くの地区組織がすでに存在し、安全・安心のネットワークも推進されている。既存の組織を活用しながら、市民全体で防災対策を整えていくことが重要だ。